

「留学後の支援必要」区

国際医療貢献フォーラム 北

海外で医療支援に取り組む県内の団体が集まる「第3回国際医療貢献フォーラム」(県、国際医療NGO「AMDA」主催)が11日、北区奉還町2の岡山国際交流センターであり、約90人が集まった。

AMDAバンングラデシユ支部長のサーダー・A・ナイーム医師は基調講演で、同国から日本への留学経験者の現状を紹介。「帰国後は医療器材の不足などから、学んだ知識など

を生かせず、国外に出てしまう」と指摘。自身の留学経験にも触れ、「AMDAの援助で、帰国後に医師の養成な

どができた」といい、留学後の支援の重要性を訴えた。AMDAグループの菅波茂代表も講演し、「融資で支援する仕組みを構築すべき」と述べた。参加した県立総社南高2年、河野歌穂子さん(16)は

「国際社会で助け合う大切さを学んだ」と話した。

【瀬谷健介】



「日本への留学経験がある医師らの知識や技術を生かせる環境を整えるべき」と述べたAMDAバンングラデシユ支部長のサーダー・A・ナイーム医師

—北区奉還町2の岡山国際交流センターで